



Ver24

配筋検査

※解説がオプションプログラムの内容である場合があります。ご了承ください。

目次

1. 配筋検査での連携の流れ	1
2. 出来形管理の起動	2
2-1 出来形管理を起動する	2
2-2 分類を作成する	3
2-3 帳票のフォームを選択する	5
3. 出来形データの入力	8
3-1 測点を作成する	8
4. 配筋連携ファイルの書き込み	14
4-1 配筋連携XMLファイルに書き込む	14
5. 配筋連携ファイルの読み込み	15
5-1 配筋連携XMLファイルを読み込む	15
6. 帳票の作成	16
6-1 帳票を作成する	16

1

配筋検査での連携の流れ

配筋検査での現場端末とEX-TREND武蔵の出来形管理の流れは、以下のようになります。



① 出来形管理で設定した測定項目、設計値を出力し、現場端末で読み込みます。

② 出来形管理に現場端末で計測した実測値を読み込みます。

③ 配筋検査専用出来形帳票を作成します。



現場端末

MEE
三菱電機エンジニアリング社製
Field Bar®
(AI配筋検査端末 FB-110)



DataLabs
DataLabs社製
Modely



- ※ 「Maisart」は三菱電機株式会社の登録商標です。
- ※ 「Field Bar」は三菱電機エンジニアリング株式会社の登録商標です。
- ※ ©2023 DataLabs株式会社

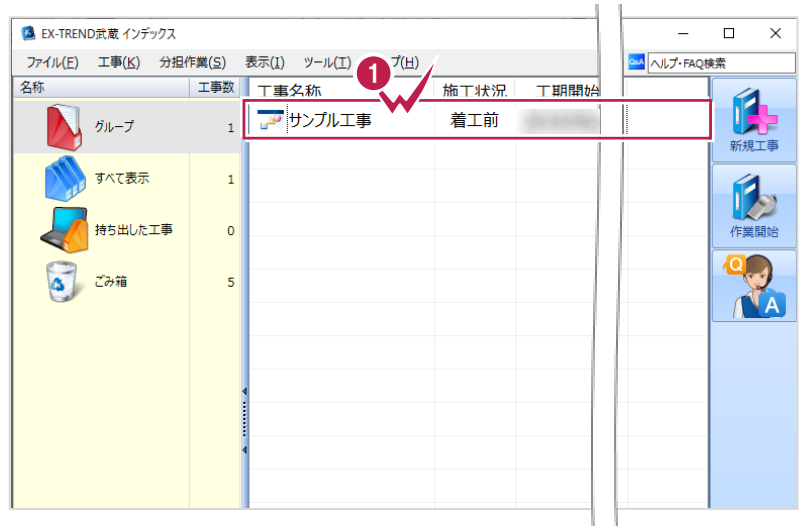
2

出来形管理の起動

EX-TREND武蔵 インデックスで工事データを開き、出来形管理を起動します。

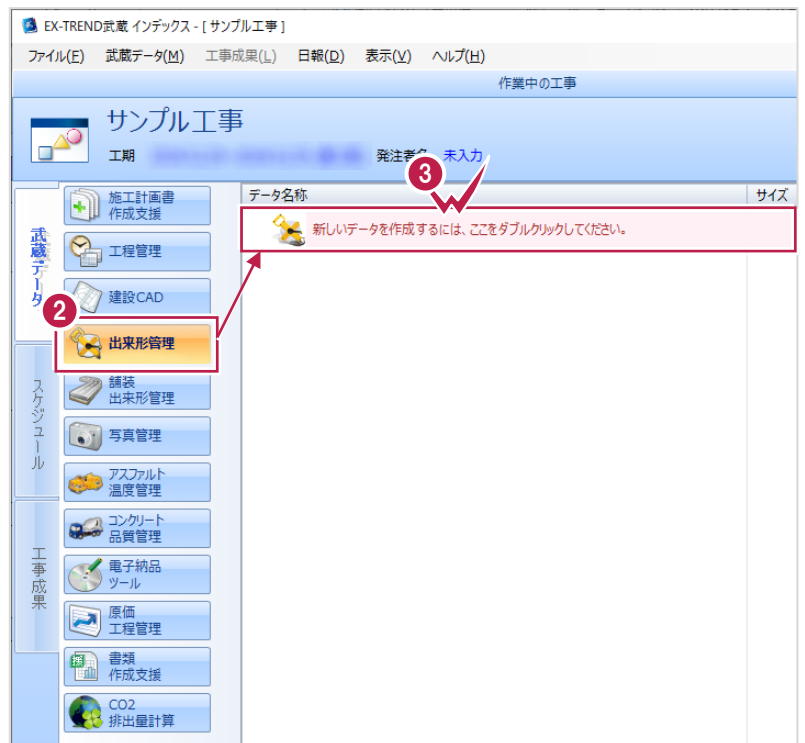
2-1 出来形管理を起動する

- 1 作業を行う工事データをダブルクリックします。



- 2 プログラムリストで「出来形管理」をクリックします。

- 3 データ一覧で、最上行をダブルクリックし、新たに出来形管理データを作成します。

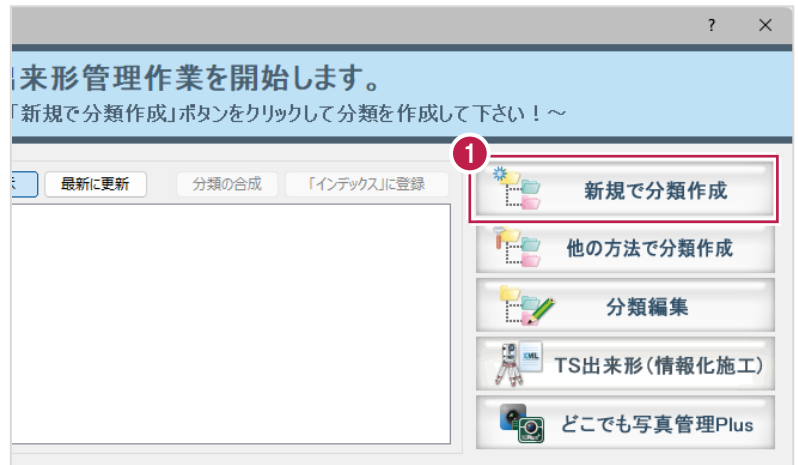


2-2 分類を作成する

分類を作成します。

ここでは、[新規で分類作成]を使用し、任意の名称で分類を作成します。

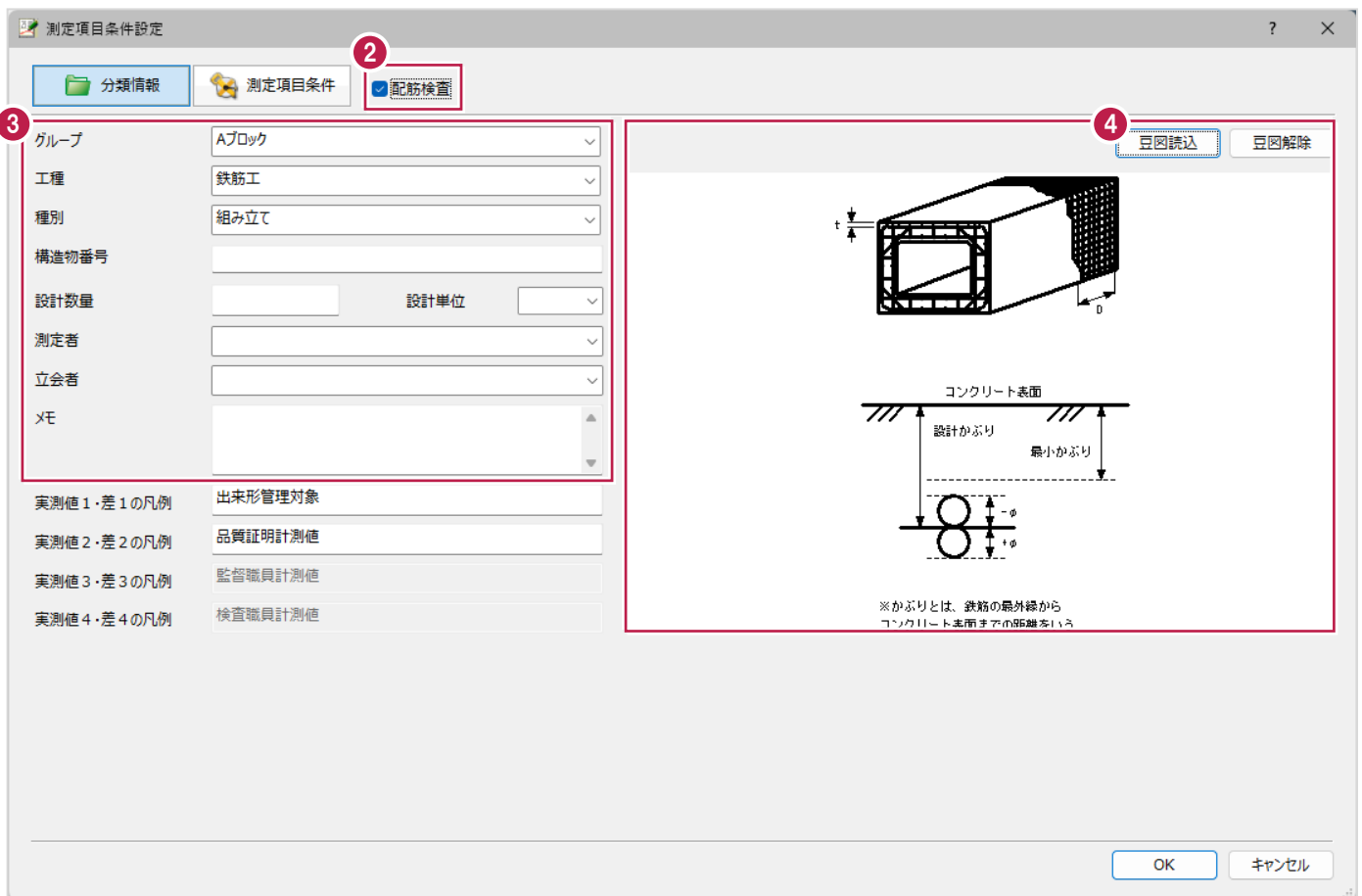
① [新規で分類作成] をクリックします。



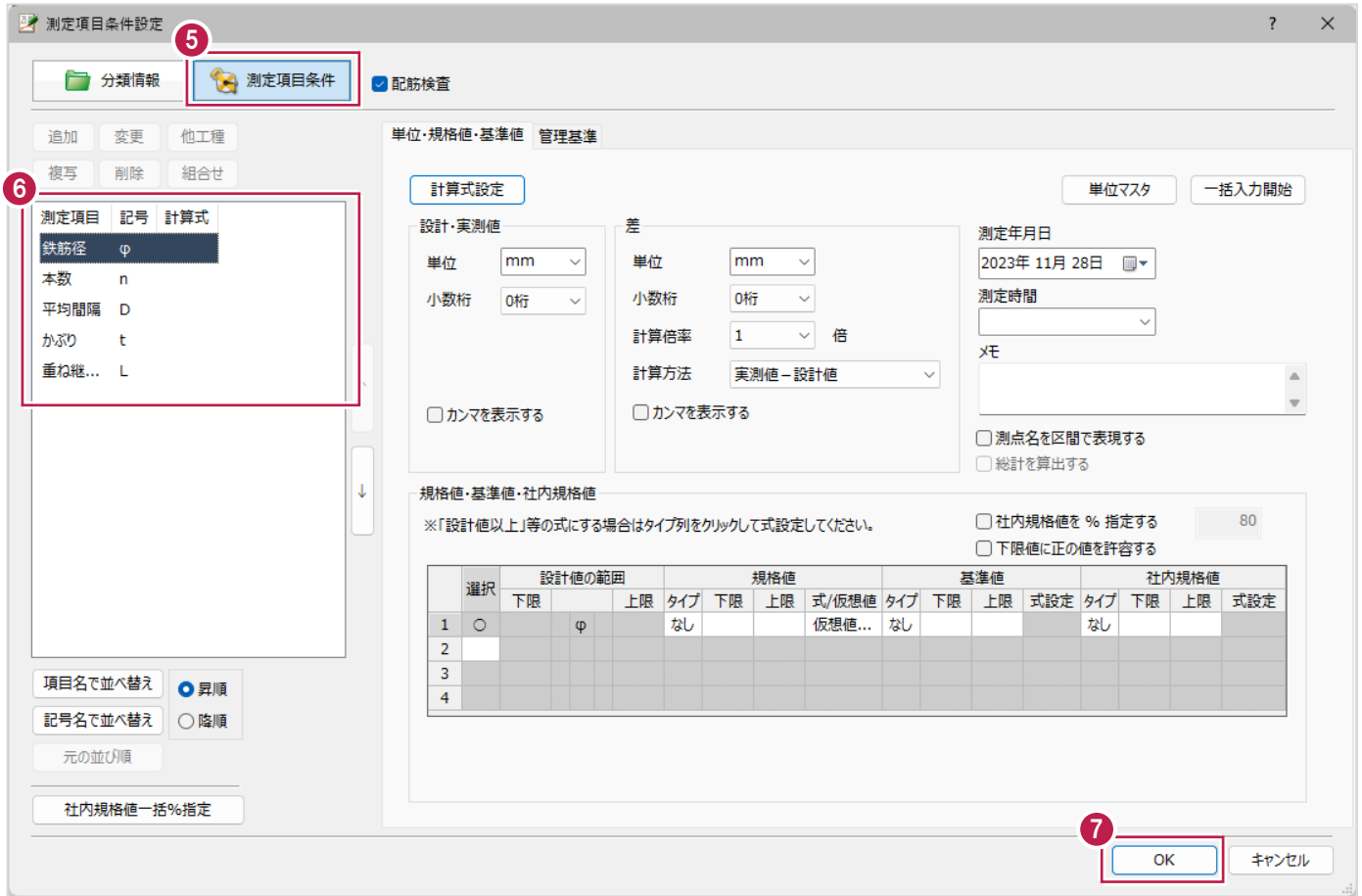
② [配筋検査] のチェックをオンにします。
(※ [配筋検査] のチェックは新規作成時
のみ設定できます。)

③ 分類情報 (グループ、工種、種別など) を
入力します。

④ [豆図読込] で豆図を選択します。



- 5 [測定項目条件] をクリックします。
- 6 配筋検査用に測定項目などが自動的に設定されます。
- 7 [OK] をクリックします。



2-3 帳票のフォームを選択する

使用するフォーム（帳票）の種類を設定します。

- 1 フォームの「変更」をクリックします。

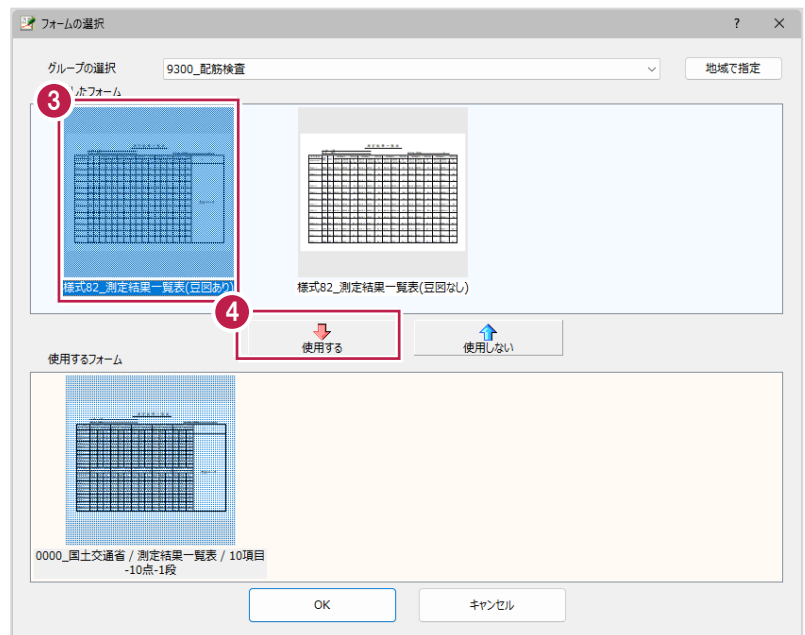


- 2 「グループの選択」で「9300_配筋検査」を選択します。



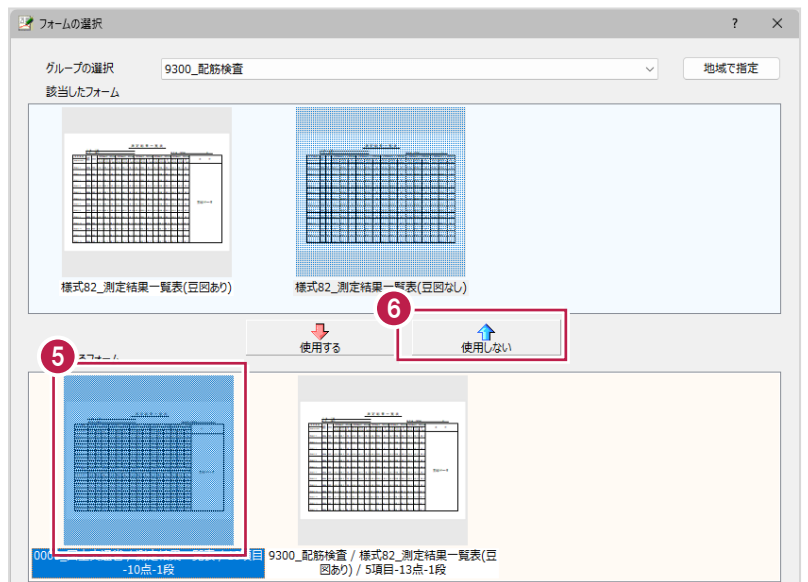
- 3 ここでは「該当したフォーム」で「様式 82_測定結果一覧表（豆図あり）」を選択します。

- 4 「使用する」をクリックします。





- 5 6 ここでは、「0000_国土交通省/測定結果一覧表/10項目-10点-1段」を選択して「使用しない」をクリックします



- 7 [OK] をクリックします。



8 [作業開始] をクリックします。

作業の開始

出来形管理作業を開始します。
～リストから分類を選んで「作業開始」ボタンをクリックして下さい！～

ツリー表示 リスト表示 最新に更新 分類の合成 「インデックス」に登録

TS	グループ	工種	種別	最終更新日時
	Aブロック	鉄筋工	組み立て	2023/11/30 17:45...

新規で分類作成
他の方法で分類作成
分類編集
TS出来形(情報化施工)
どこでも写真管理Plus

分類の情報

[測定項目] [測点: 2] [豆図] 読込 解除 [フォーム] 変更

測定項目	記号	測点名
鉄筋径	ϕ	
本数	n	
平均間隔	D	
かぶり	t	

測定者
ME

総括表を作成 →

8 作業開始 終了

3

出来形データの入力

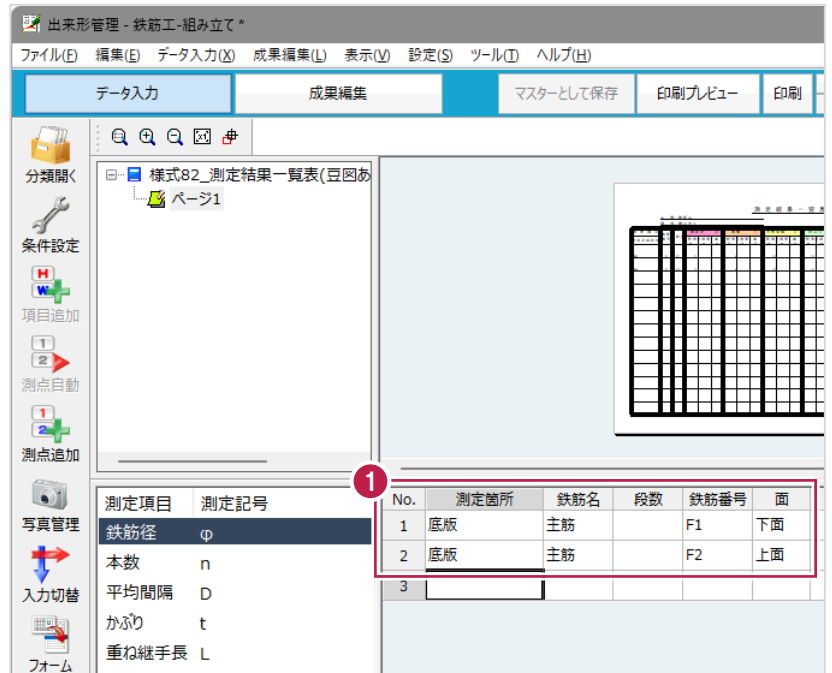
出来形データを入力します。
ここでは、測点を作成して、設計値を入力します。

3-1 測点を作成する

測点を作成します。ここでは「手で追加する方法」を説明します。

① ここでは、以下のように入力します。

- ・No.1：測定箇所「底板」
鉄筋名「主筋」
鉄筋番号「F1」
面「下面」
- ・No.2：測定箇所「底板」
鉄筋名「主筋」
鉄筋番号「F2」
面「上面」



② 測定項目を選択して設計値を入力します。

測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実
鉄筋径	φ	1	底板	主筋		F1	下面			22	
		2	底板	主筋		F2	上面			13	
		3									

測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実
本数	n	1	底板	主筋		F1	下面			8	
		2	底板	主筋		F2	上面			8	
		3									

測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実
鉄筋径	φ	1	底板	主筋		F1	下面			125	
本数	n	2	底板	主筋		F2	上面			125	
平均間隔	D	3									

測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実
鉄筋径	φ	1	底板	主筋		F1	下面			110	
本数	n	2	底板	主筋		F2	上面			110	
		3									

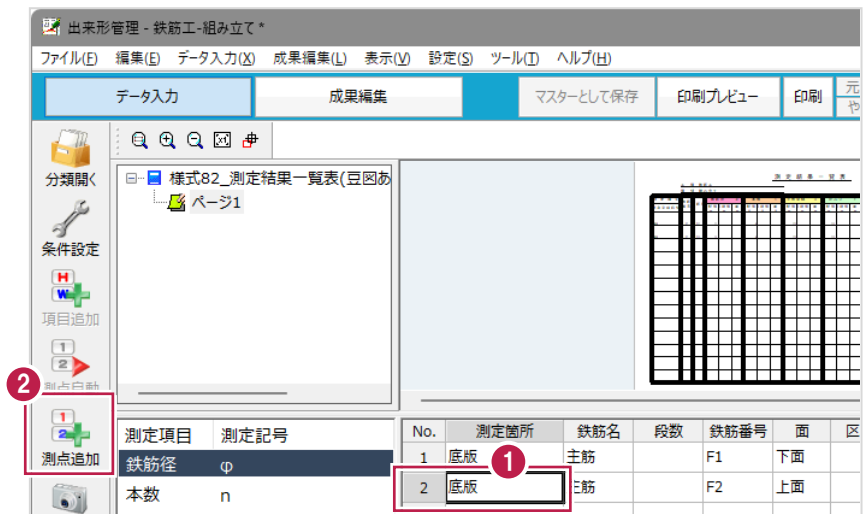
測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実
鉄筋径	φ	1	底板	主筋		F1	下面			690	
本数	n	2	底板	主筋		F2	上面			410	
		3									

測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実
鉄筋径	φ	1	底板	主筋		F1	下面			690	
本数	n	2	底板	主筋		F2	上面			410	
平均間隔	D	3									
かぶり	t										
重ね継手長	L										

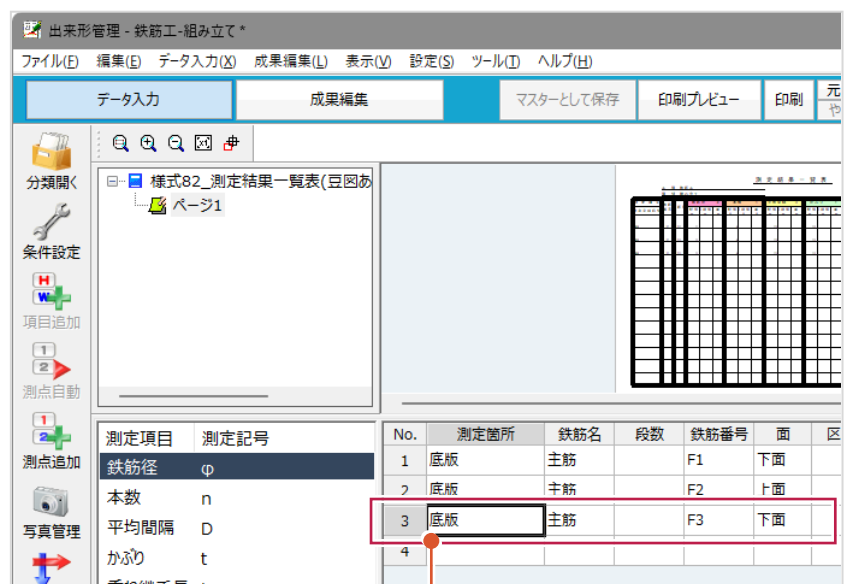
測点箇所を追加する

[測定追加] で測定箇所を追加することができます。

- ① 測定箇所を追加する位置を選択します。
- ② [測定追加] をクリックします。



- ③ 測定箇所、鉄筋名、鉄筋番号などを入力
[OK] をクリックします。

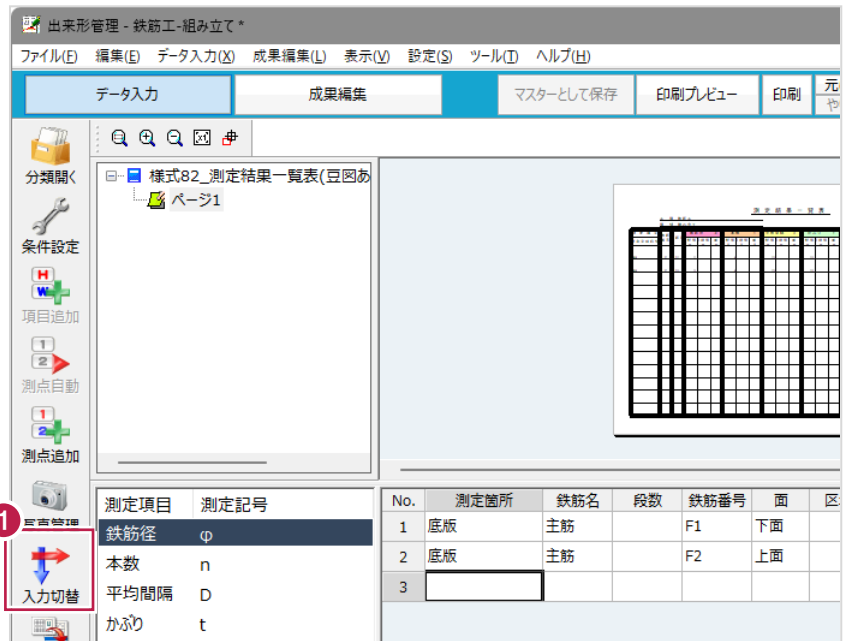


指定した位置に測定箇所が追加されます。

縦断入力から横断入力に切り替える

〔入力切替〕で縦断入力から横断入力、または横断入力から縦断入力に、測定データの入力方法を切り替えることができます。

- 1 〔入力切替〕をクリックします。



縦断入力から横断入力に切り替わります。
 (再度〔入力切替〕をクリックすると、縦断入力に戻ります。)

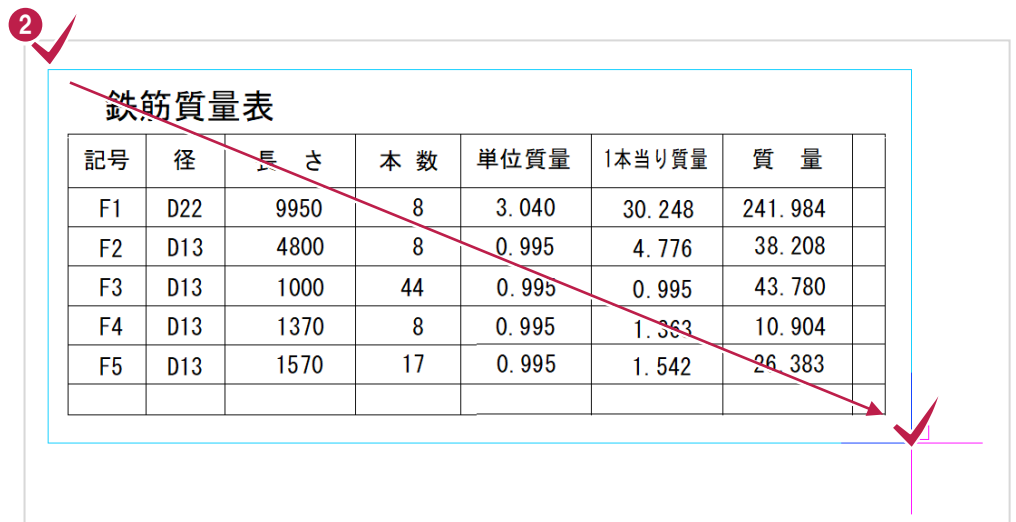
鉄筋表を読み込んだ建設 CAD から数値を取得する

鉄筋表を読み込んだ建設CADから数値を取得することもできます。

- 1 [土木] - [表] - [表属性付加] をクリックします。

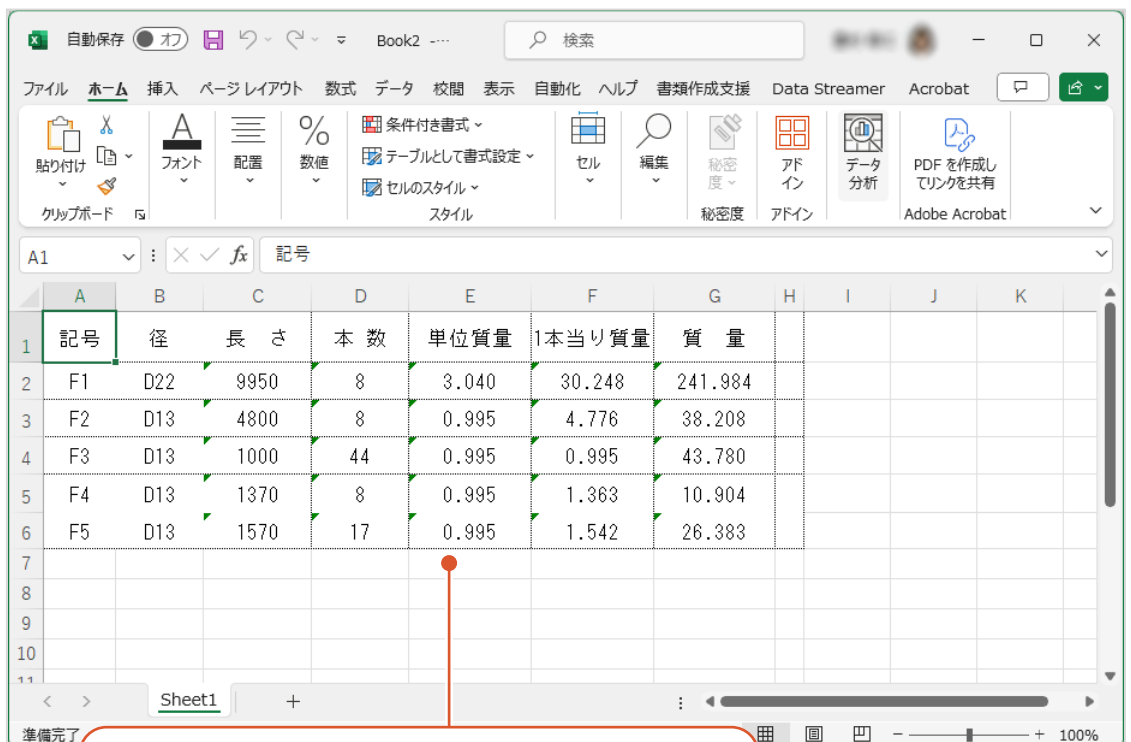


- 2 数値を取得する範囲を指定します。



(次ページへ続きます)

3 EXCELの「書き込み」をクリックします。



鉄筋表がEXCELに書き込まれて、表示されます。
EXCELから設計値をコピーして、出来形管理の設計値に
貼り付けることができます。

鉄筋表を読み込んだ建設 CAD から、文字を出来形管理へ送る

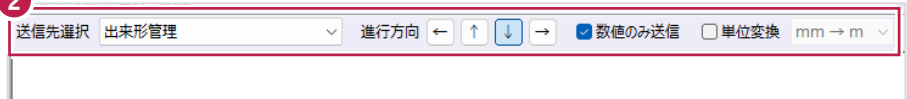
鉄筋表を読み込んだ建設CADから、文字を出来形管理へ送ることもできます。

- ① [入力] - [文字] - [施工管理へ送る] をクリックします。



- ② ここでは、インプットバーで以下のように設定します。

[送信先選択] : 「出来形管理」
 [進行方向] : 「↓」
 [数値のみ送信] : オン



- ③ 出来形管理で文字の送信先を選択します。

測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実測
鉄筋径	φ	1	底板	主筋		F1	下面				
本数	n	2	底板	主筋		F2	上面				
平均間隔	D	3									
かぶり	t										

- ④ 建設 CAD で文字を指定します。

鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質
F1	D 22	9950	8	3.040	30.248	241

測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実測
鉄筋径	φ	1	底板	主筋		F1	下面			22	
本数	n	2	底板	主筋		F2	上面				
平均間隔	D	3									
かぶり	t										

出来形管理の選択した箇所に建設CADで指定した文字が入力されます。

- ⑤ 続けて入力する文字を建設 CAD で指定します。

鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質
F1	D 22	9950	8	3.040	30.248	241
F2	D 3	4800	8	0.995	4.776	38
F3	D13	1000	44	0.995	0.995	43
F4	D13	1370	8	0.995	1.363	10
F5	D13	1570	17	0.995	1.542	26

出来形管理の選択した箇所の下に建設CADで指定した文字が入力されます。

測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実測
鉄筋径	φ	1	底板	主筋		F1	下面			22	
本数	n	2	底板	主筋		F2	上面			13	
平均間隔	D	3									
かぶり	t										

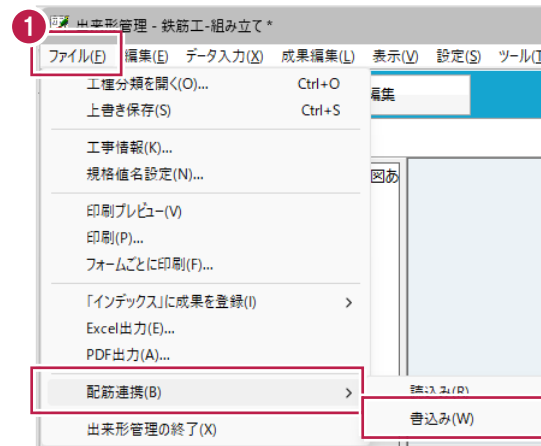
4

配筋連携ファイルの書き込み

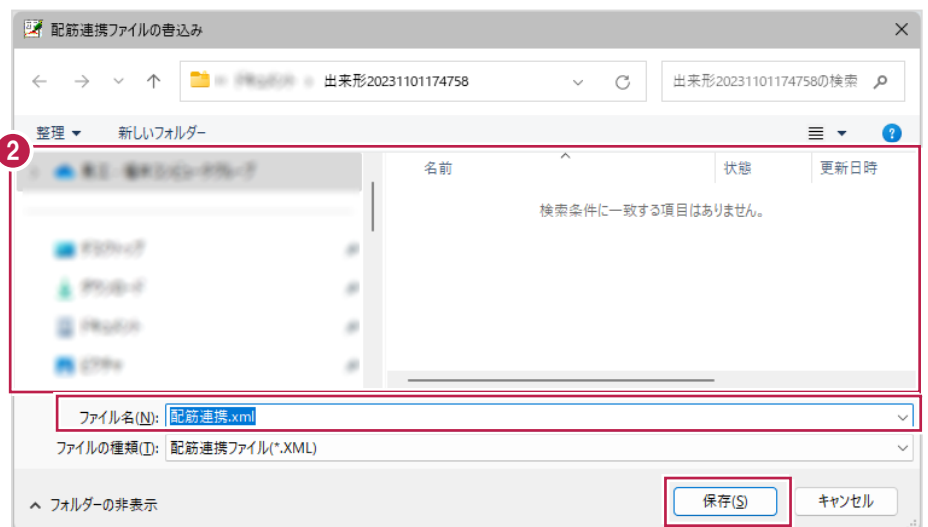
出来形管理で作成した配筋検査用データを現場端末に連携するため、配筋連携XMLファイルに書き込みます。

4-1 配筋連携XMLファイルに書き込む

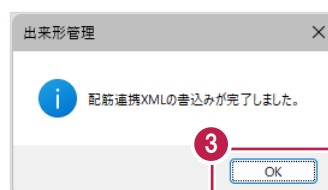
- 1 [ファイル] - [配筋連携] - [書き込み] をクリックします。



- 2 保存先、ファイル名を設定して、[保存] をクリックします。



- 3 確認のメッセージが表示されますので、[OK] をクリックします。



鉄筋径の設計値にJIS規格値（10、13、16、19、22、25、29、32、35、38、41、51）以外の数値が入力されている場合は、アラートが表示されます。

現場端末で配筋連携XMLファイルを読み込み、実測値を測定します。

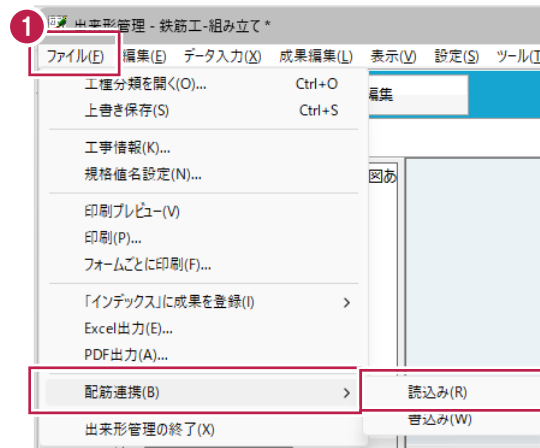
5

配筋連携ファイルの読み込み

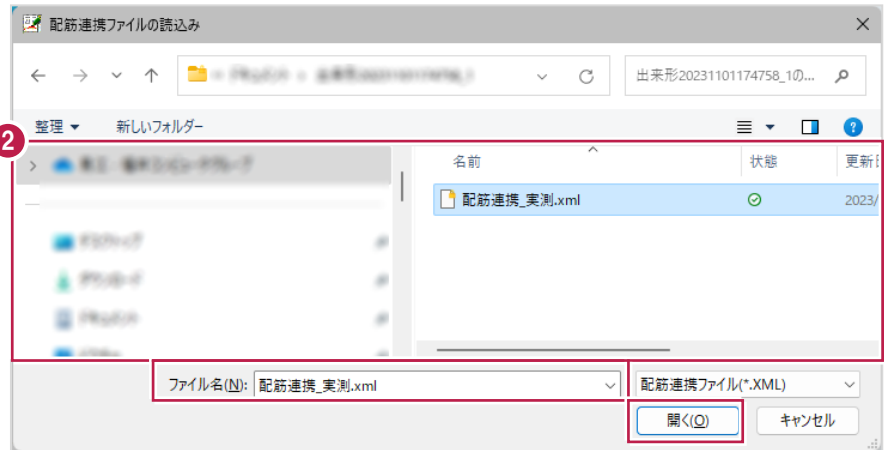
現場端末で測定した実測値などを出力した配筋連携XMLファイルを読み込みます。

5-1 配筋連携XMLファイルを読み込む

① [ファイル] - [配筋連携] - [読み込み] をクリックします。



② 読み込む配筋連携 XML ファイルの保存先、ファイル名を選択して [開く] をクリックします。



③ 現場端末で測定した実測値が取り込まれます。

③

測定項目	測定記号	No.	測定箇所	鉄筋名	段数	鉄筋番号	面	区域	ブロック	設計値	実測値1	立会値	差1	差2
鉄筋径	φ	1	底版	主筋		F1	下面				22		0	
本数	n	2	底版	主筋		F2	上面				13		0	
平均間隔	D	3												
鉄筋径	φ	1	底版	主筋		F1	下面				8		0	
本数	n	2	底版	主筋		F2	上面				8		0	
平均間隔	D	3												
鉄筋径	φ	1	底版	主筋		F1	下面				125		0	
本数	n	2	底版	主筋		F2	上面				125		0	
平均間隔	D	3												
鉄筋径	φ	1	底版	主筋		F1	下面				110		0	
本数	n	2	底版	主筋		F2	上面				110		0	
平均間隔	D	3												
鉄筋径	φ	1	底版	主筋		F1	下面				690		0	
本数	n	2	底版	主筋		F2	上面				410		0	
平均間隔	D	3												
かさり	t													
重ね継手長	L													

6

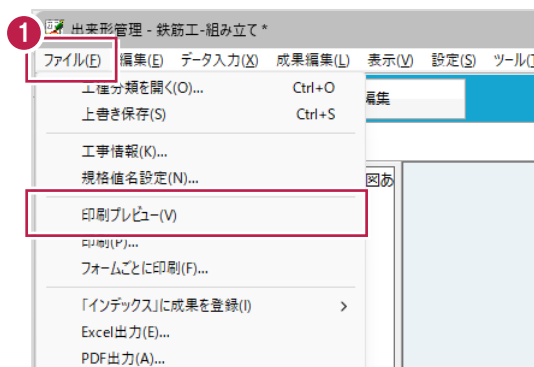
帳票の作成

帳票の出カイメージをプレビューで確認し、帳票の印刷、PDF出力、Excel出力を行います。

6-1 帳票を作成する

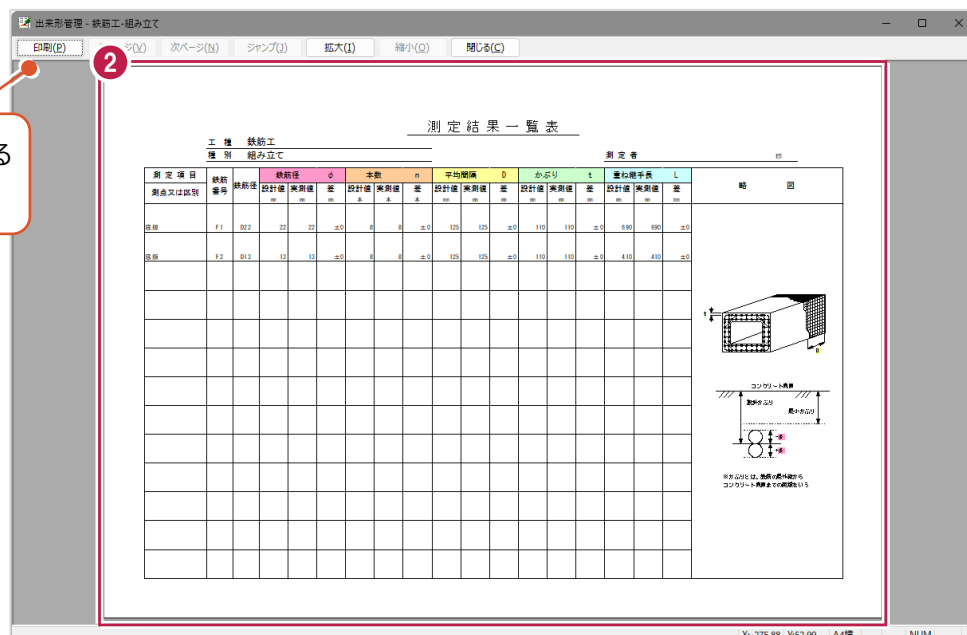
[印刷プレビュー] で印刷イメージを確認します。

- 1 [ファイル] - [印刷プレビュー] をクリックします。



- 2 印刷イメージを確認します。

[印刷] で印刷することもできます。



帳票は [印刷] で出力するだけでなく、メニューバーの [ファイル] - [PDF出力] でPDFファイルとして保存できます。
また、[ファイル] - [Excel出力] でExcelファイルとして保存できます。

